

1、人間学

・人間学Ⅰ（第1学年必修）

「インドの釈尊および日本の仏教者・親鸞。二人の生涯と基本的な思想を学ぶことを通して、私たち人間はどう生きるべきなのか、自ら考える姿勢を身につける」

・人間学Ⅱ（第2～4学年選択必修）

「さまざまな学問分野が示す多様な人間観に触れる中で、自己理解・他者理解を深め、共に生きる社会への問題意識を醸成する」

2、人間学Ⅱでの実践例

テーマ 大谷大学伝道掲示板「きょうのことば」に学ぶ

授業概要

本学には、正門と北門に伝道掲示板が設置されている。そこには「きょうのことば」（月ごとに変わるので今月のことばでもある）が掲示されている。真宗・仏教のほか、さまざまな専門分野から、学生たちに触れて欲しい言葉が選ばれ掲示されるとともに、そのことばの解説文も作成されている。この授業では、過去に掲示された「きょうのことば」を取り上げて、そのことばが生まれた背景や意味を学ぶことを通して、私たち人間の課題を考察していく。また、受講生には「きょうのことば」の解説文の作成を求める。

（2021年度シラバスより）

3、「きょうのことば」の一例

1991年4月 われまさに世において無上尊となるべし。 『大無量寿経』

2004年7月 この一枚の紙のなかに雲が浮かんでいる。

ティクナットハン 『仏のおしえビーイングピース』

2011年12月 是非しらず邪正もわかぬ このみなり

小慈小悲もなけれども 名利に人師をこのむなり 親鸞 『正像末和讃』

2020年5月 教育の理想的な目的は、自制力の創造にある。

ジョン・デューイ 『経験と教育』

4、学生の選んだことば

学生① 2018年

I、「どちらでもいい」という人は、生きているとは言えない。

（『死ぬまで仕事に困らないために20代で出逢っておきたい100の言葉』）

II、この言葉は今回の課題のために見つけ出した言葉です。上記の本を読んでいたとき、この言葉が目にとまり少しギョッとしました。それは私の口癖が「どちらでもいい」とかそういった類のものだからです。私自身それが悪いことだと思っていませんでした。しかし、この言葉を読み「どちらでもいい」というのは決断することを放棄し、他人に自分の

人生を決めてもらう、それは「生きていない」といっても過言ではないのだと気づきました。全ての事柄をこの言葉の理屈に当てはめるのは少々大袈裟かもしれませんが、これからはなるべく自分の事は自分で決めようと思いました。

学生② 2016年

I、大切なのは、人があなたをどう見るかではなく、あなたがあなたをどう見るか。

伊藤守（『The Angel's Message』）

II、人は誰しも、自分と他人とを比べて落ち込んだり、逆に優越感を得たりします。私自身、この言葉に出会うまでは、友達のことを羨むことが何度もありました。また、自分のしたことに対して周りの人はどう思っているのか、不安に思うことも度々ありました。それは、他人の目で自分の価値を計ろうとしているからだ、この言葉に出会い気づきました。この言葉は、一度しかない自分の人生を他人の目ばかり気にして生きていくのは、もったいないということを教えてくれました。なので、この言葉を選びました。

学生③ 2016年

I、救われるということは、場所を給わること

宮城颯（『ひとくち法話いま伝えたい言葉』）

II、この言葉を選んだ理由

授業での発表がうまくいかず、準備期間が長かったぶん、ひどく落ち込んでしまったことがあった。その後の授業でも、その失敗がずっと気になり集中することができなかった。一日を憂鬱に過ごしていた。しかし、休み時間になり友達と会って話を聞いてもらったり、笑っているうちに、それほど気にならなくなった。また家族と電話で話しているうちに「大丈夫」と思うことができるようになった。人と関わるうちに心が軽くなり前向きになることができる。そのような経験は誰にでもあるのではないか。

今までは何の意識もしていなかったが、この言葉を知り、私は「救われていたのだ」と気付いた。私を受け入れてくれる場所があるということが、私の心を救ってくれていた。場所とは人のことなのではないかと思う。私の話を聞いてくれる、受け入れてくれる、大切に思ってくれる人が「場所」であり、「救い」なのだと感じた。また、私自身が誰かの「場所」になっている可能性があることにも気付いた。私の対応や関わりが誰かにとってとても重要なものになりうる。今まで意識していなかったため当たり前のように過ごしていたが、もっと周囲の人を「救いの場所」を大切にしていきたいと思う。

学生④ 2015年

I、何も学ぶべきところのない人に出会ったことはない。

ガリレオ・ガリレイ（『悩みを「力」に変える100の言葉』）

II、この言葉を選んだ理由

私は、高校3年間、毎日一緒にいた友達がいます。毎日一緒に過ごしていると、人の話

はまじめに聞いてくれないし、約束は忘れられていることが多いし、嫌なところばかりが目につくようになってしまいました。一緒にいて、居心地が悪いなど感じたり、嫌なところがたくさん見えるのに、一緒にいることに疑問を感じるようになった頃、この言葉と出会いました。私が不快だと感じていたことは、誰かにとっても不快だと思うことなのかもしれない。その人がしていることは、自分は絶対にしてはいけない、という意識につながることができました。

そして、もしかしたら自分は、友達の悪いところばかりを見ていたのではないかと考えるようになり、自分の接し方や態度を見つめ直すきっかけにもなりました。自分を見つめ直してみると、改善すべきところがたくさんありました。この言葉と出会ってから、どんなに価値観が合わなくても、嫌だなど感じることも多くても、その人との出会いそのものが自分にとっての学びであることに気づかされました。この先の人生でも、この言葉を大切に人と付き合っ、向き合っていきたいと思います。

学生⑤ 2018年

I、思いどおりにならないことを思いどおりにしようとするから、苦しみが生まれるのです。
川村妙慶（『いのち輝く 365日』）

II、この言葉を選んだ理由

部活で役員をしているとき、会議があれば会議が始まる前に、用意した資料全てに目を通して、何を聞かれても答えられるようにしておくべきだと考えていました。役員になりたての時は、自分だけを対象に入念に準備していましたが、日を追っていくごとにまわりの人にも同じようにしてほしいと思い始めていました。まわりの人ができなかったとき、嫌気がさしたような感覚がありました。その当時は分からなかったのですが、この言葉を見たときに、この言葉のままのことをしていたんだなと思いました。それからは「自分と他者は違う」ことを前提に物事を進めていくと、気持ちが楽になりました。

5、学生の作品（解説文）

→別紙（PDF）をご覧ください。